

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		1/15-1/22	1/22-1/29
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.044
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.089
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.110
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.019
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.070
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.066
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.027
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.064

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		1/15-1/22	1/22-1/29
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.082
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.027

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第126回目
大気浮遊じん放射能測定結果の解説
(2020年1月15日～2020年1月29日)

今回の大気中の浮遊塵のセシウム137濃度は、国や県が公表している数値(0.055±0.039 mBq/m³)と全く変わりなく、平均0.053mBq/m³と過剰被ばくを全く考えなくて良い状態です。ところで、原発事故が起因となって環境を汚染した放射性核種は、セシウム134と137でしたが、事故後10年を経て、半減期が短いセシウム134がほとんどなくなり、半減期が30年と長いセシウム137だけが残っていることとなります。そのため、今後は、セシウム137の半減期で減衰してゆくこととなりますのでその速度はゆっくりしたものになります。しかし、残っている放射線量も僅かであり健康に悪影響を及ぼすものではありません。